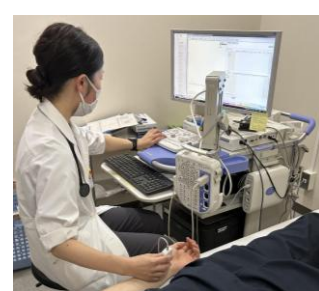
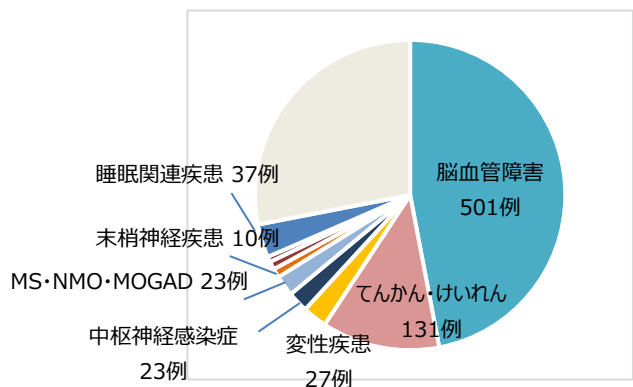


名古屋医療センター 脳神経内科 後期研修医募集

当院は地域の基幹病院として神経内科疾患全般についての診療をおこなっており、救急疾患から変性疾患、免疫関連疾患まで様々な神経疾患を学ぶことができます。毎年、神経内科入院患者総数は1100-1200例で、その内訳は脳血管障害が最も多く半数弱を占め、ついでてんかん・痙攣、パーキンソン病やALSなど変性疾患、髄膜炎・脳炎など感染症、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎、NMOSDなど、末梢神経障害と続きます。また、脳静脈洞血栓症、クロイツフェルト・ヤコブ病など比較的稀ではありますが、臨床的に重要な疾患も含まれています。脳卒中に関しては1例ごとに病型診断、画像所見を大切に、エビデンスに従った治療を行うことを心がけています。

入院 年間 1163例のうちわけ

週1回リハビリテーションチームとの脳卒中合同カンファレンスを行い、患者さんの病態の検討、治療方針の確認、機能的予後などの検討を行っています。また、脳神経外科の血管内治療チームと連携して脳梗塞の超急性期治療にも積極的に取り組んでいます。機能外科チームとの連携ではてんかん診療、パーキンソン病診療にもあたっています。後期研修医時代はこうした多くの患者さんを担当し、脳波、筋電図、頸動脈エコーなどを専門の指導医から学び、後期研修修了時には神経内科専門医を受験することが十分可能となります。



専門研修の間に、電気生理検査や頸動脈エコーの基本的な手技を習得して、一人で検査が行えるようになります

脳神経内科常勤スタッフは9名で、神経内科専門医4名、脳卒中専門医1名、認知症専門医2名、てんかん専門医1名、神経生理専門医1名などがいますので、幅広い分野で指導で学べる環境があります。常時2-3名の内科専攻医も加わり、和気あいあいとしたチームです。治験や臨床研究、学会発表にも取り組んでいます。

スタッフはみんなで協力してよく働きますが、夏休みシーズンにはそれぞれ1週間ほどの休暇をとって旅行などを楽しんでいます。やる気のある仲間を募集しています。ぜひ、一緒に頑張りましょう